

広島市植物公園 見どころ案内

マイヅルテンナンショウ (サトイモ科)
テンナンショウの仲間。葉の形が鶴が羽を広げたように見えることから名付けられました。湿った所を好み、花はサトイモ科特有の仏炎苞(ぶつえんぼう)があり、色は緑色で目立たないので、お見逃しなく。

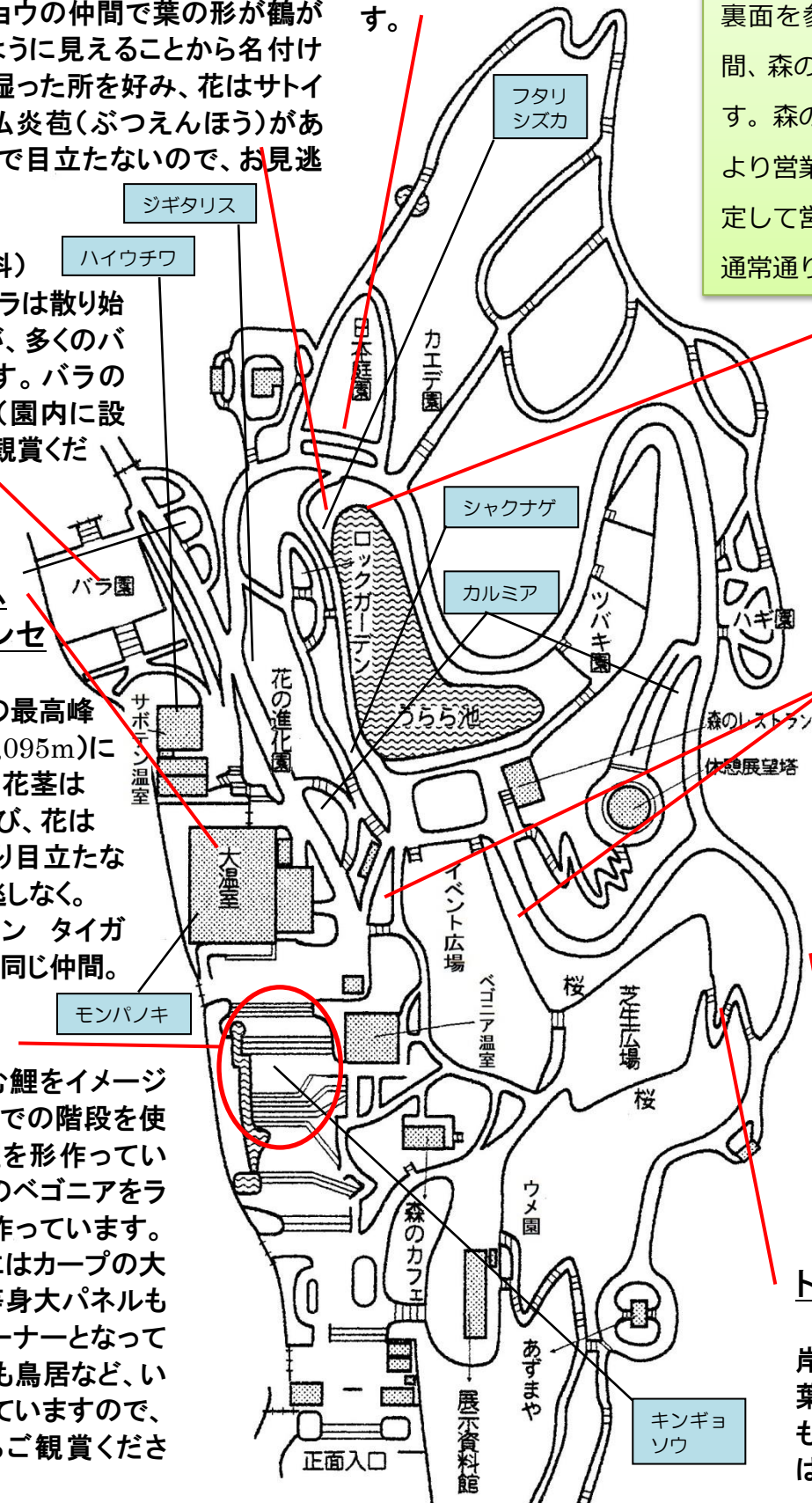
バラ (バラ科)
早咲きのバラは散り始めていますが、多くのバラが見頃です。バラのガイドマップ(園内に設置)を手にご観賞ください。

グランマト
フィルム
キナバルエンセ (ラン科)
マレーシアの最高峰キナバル山(4,095m)に自生するラン。花茎は1mくらいに伸び、花は黒茶系であり目立たないので、お見逃しなく。世界最大のラン タイガーオーキッドと同じ仲間。

巨大な鯉
広島に因む鯉をイメージして大温室までの階段を使って大きな鯉を形作っています。2種類のベゴニアをラッピングして作っています。階段の途中にはカープの大瀬良選手の等身大パネルもあり、撮影コーナーとなっています。花壇も鳥居など、いろいろ形作っていますので、注意しながらご観賞ください。

ミヤコワスレ (キク科)
春咲きの野菊です。濃い紫や淡い青の花が群生して風情があります。来月にはすぐ近くのモミジの枝にモリアオガエルの卵が産み付けられます。

新型コロナウイルス感染症対策のため、一部のイベントを中止、延期もしくは変更しています。詳細は裏面を参照してください。当面の間、森のレストランは休業いたします。森のカフェは5月23日(土)より営業時間の短縮、メニューを限定して営業します。売店、花売店は通常通り営業します。



キショウブ (アヤメ科)
欧州～西アジア原産の植物で外来種です。各地の水田や湿地などに植えられています。水辺を好み、繁殖力が強いので、環境省の要注外来生物に指定されています。

ヤマボウシ (ミズキ科)
白く花弁に見えるのは、苞葉(ほうよう)で葉が変化したものです。白い苞葉を僧侶の頭巾に見立てて、山法師(比叡山延暦寺の僧兵)と呼ばれています。

シラクヤク (ボタン科)
中国東北部～シベリア原産。もともとは薬用植物として日本に渡来しました。花が美しいことから現在は主に観賞用として栽培されています。

トベラ (トベラ科)
日本～東アジア原産。海岸近くによく生えています。葉が密生するので、生垣にもよく利用されます。花からは甘い香りがします。